

議事録 令和7年度第2回市川市博物館協議会

日 時： 令和8年3月25日（水） 14：00～16：00
場 所： 市立市川歴史博物館1階会議室
出席者： 博物館協議会委員 13名（別紙参照）
<文化財課>小笠原課長、高橋主幹、荒井自然博物館長、松本副主幹、
久保主査、金子主任、山岸主任、岡本主事、福島主事

提出書類

受領書類

発 言 者	【内 容】
松田委員長	皆様今日も協議会どうぞよろしくお願ひいたします。議事を見たところ、とても楽しみな項目が一つございまして、友の会50周年記念展というものが用意されております。それに先立ちまして、報告事項またその他の報告がございまして。本日、私は国府台をじっくり見ておこうと思ひ、国府台の駅から歩いて参りました。国府台には古墳時代、そして古代・中世の豊かな文化遺産があり、近代の軍事関係のものもございまして。また、様々な大学もありますし、国立の医療センターもあり、現地で確認できて良かったと思ひました。また地図上では二次元ですが、実際にはアップダウンがかなりあることも実感できました。歴史的にも、また自然も豊かな市川市、これを、博物館を通してどのように振興するかという話でもございまして、委員の皆様からも様々な形でご助言、ご支援いただければと思ひます。以上で、私からの挨拶に代えさせていただきます。
高橋主幹	ありがとうございます。それでは市川市立博物館の設置及び管理に関する条例第12条第1項の規定によりまして、協議会の議長であります松田委員長にこれより先の議事運営をお願いいたします。
松田委員長	はい。承知いたしました。では会議を始める前に会議の成立また会議の公開につきまして事務局よりご説明をお願いいたします。
高橋主幹	はい。事務局から報告いたします。開会にあたりまして本日は14名中9名の委員が出席されておりますので、市川市立博物館の設置及び管理に関する条例第12条第2項の開催の規定、委員定数の過半数以上の出席という条件を満たしておりますことから、この協議会が成立していることをご報告申し上げます。次に会議の公開についてですけれども、市川市では協議会の会議の公開・非公開の決定について議事に先立ちまして決定することとなっております。事務局では本日の会議を公開とすることを考えております。以上です。

松田委員長	ということで本日の協議会ですが、公開するという事によろしいでしょうか。それでは本日のこの会議は公開と決定いたしました。傍聴を希望される方はいらっしゃいますでしょうか。
高橋主幹	はい。残念ながら本日はいらっしゃいませんでした。
松田委員長	はい。わかりました。それでは公開ということですね。この先傍聴される方が出てくるかもしれないけれども、とにかく進めてまいります。それでは協議会を開会いたします。本日の委員会は、報告事項が議題に出ていますように3件、それから「その他」が2件、そして先ほども言及しました友の会50周年企画展を見るという予定になっております。それでは、事務局より議題(1)の報告事項、令和8年度の館別の事業計画についてのご説明をお願いします。
松本学芸員	考古からご説明申し上げます。考古博物館の松本と申します。要点のみのご報告とさせていただきます。1 考古のページをご覧ください。左端に事業種別という大枠の分類がございます。2 番目の展示という今年度予定しておりました企画展「よみがえる曾谷貝塚」というのが展示の項目2行目でございます。令和8年度予算をいただきましたので、来年度開催ということになります。詳細は後程、担当の領塚学芸員からご説明いただきます。3 番目の市民向けの教育普及、2 番目に市川歴史セミナー公開講演会がございます。市川歴史セミナーは年9回、考古・歴史博物館の担当学芸員がそれぞれ自分の分野について時代順に市民の皆様にお話をし、市川市について通史的に知っていただくという企画ですが、そのうちの1回を公開講演会としております。令和8年度につきましてはヨシザワナルミさん、貝輪の研究者ですが、曾谷貝塚展と合わせまして、縄文について機運を高めるということで貝輪についてヨシザワ先生にお話しいただくことになっております。同じ市民向けの教育普及も、下段の9, 10, 11, 12と近年力を入れている項目がございます。9 番目市民祭り等々外部に私共がブースを出展し、様々な体験ですとか小さな展示をして見ただくという企画でございます。市民祭りは市川市を中心として実行委員会形式で主催、ラグビーのクボタスピアーズですとかショッピングセンターについて、今年度出展し始めました。新年度につきましては、4 月早々今度は市民が中心になって企画しているイベント、ニューボロイチというクラフト系、雑貨ですとかそういった環境の作家さんが出店をするイベントです。ボロイチというのは元々、葛飾八幡宮の例大祭に合わせましておよそ270 年以上続いている民俗学の調査が入っているイベントでございますが、そのボロイチになぞらえた市民が手作りで企画しているイベントにですね博物館が出展するといった形でより外部出展を強化していきたいと考えております。その他アイリンクタウンですとかいろんなイベントにおきまして外へ出たり、あるいはデジタル地域通貨をからめたイベン

	<p>トを新年度は強化していきたいと考えております。最後運営のところ考古歴史博物館ウェブサイト SNS において等々5番目に書いてあります。今年3月に新しい市川のウェブサイトがオープンいたしました。これについては私ではなくて歴博山岸が中心となって新しいウェブの手直しや新規の企画を若手が中心となって今やっけていただいております。こうした周知関係、広報関係も今後考古博物館、歴史博物館合わせて一緒になって強化していきたいと思っております。私からは以上となります。</p>
<p>山岸学芸員</p>	<p>はい。続きまして歴史博物館の令和8年度の事業計画についてお答えいたします。歴史博物館学芸員山岸です。1番上から、収集保管及び調査研究から、その1番からですね、古文書類の調査整理につきましては引き続き会計年度任用職員と古文書ボランティアによる整理を続けて行います。また、2番の第1収蔵室民具資料整理につきましてはこちら民俗担当学芸員福島から説明していただきます。</p>
<p>福島学芸員</p>	<p>担当者の福島と申します。来年度行なう第1収蔵室民具整理につきましては、基本的には令和6年度から始めさせていただいている事業の続きとなります。今年度の下半期に國學院大學と市川市教育委員会で連携協定を締結いたしまして、令和8年度におきましては、その協定に基づいた、連携項目に基づいた事業として進めていく予定です。計画としましては、上半期に特別実習として集中的に、そして下半期には月に2、3回というような形で収蔵庫整理、主に民具の資料の再整理を行ってまいります。令和6年度から1つの棚を集中的にやっております、令和6年度は塩づくり、7年度は海苔づくり、来年度に関しましては海苔づくりの棚がもう1つございますので、そちらを進めていく予定です。事業が、作業が終了したらその都度、成果報告展示として来年度は成果報告展示を2回ほど行わせていただこうと思っております。以上です。</p>
<p>山岸学芸員</p>	<p>続きまして4番の市内民俗行事調査ですが、令和8年度は旧国分村地域、国分、中国分、曾谷、稲越、下貝塚などですね。その地域の祭礼や年中行事を中心に調査をして参りたいと思っております。というのも、考古の企画展の次は歴史博物館が担当させていただきます。令和9年度の企画展で歴史博物館が担当となりまして、国分地域を中心とした企画展を考えておりますので、旧国分村地域の行事などを調査していきたいと考えております。続きまして、上から2つ目の展示、2番の学校連携学習資料展「発見体験 昔のくらし」なのですが、考古博物館の企画展の開催期間に伴いまして、年内で展示を終えることになっております。そのため、会期が短くなっております。3つ目市民向けの教育普及といたしまして、夏休みの体験講座と正月飾り・クリスマスリースづくり、こちら両方とも子ども向けの体験講座になっておりまして、どちらも好評をいただいております。5番の正月飾り・クリスマスリースづくりにつきましては大変人気のため、1日1回のみ実施していたところを1日2回実施する形としまして応募者多数の場合でも対応できるように考えてお</p>

ります。7番の昔のあそび体験、こちらも令和8年度よりこの部屋、会議室をプレイルーム、いわゆる体験ルームですが、昔の資料を触れたり、昔のあそびの会場とするような形として会議室を活用していきたいと思っております。続きまして、学校関連の教育普及1番と2番ですが、学校巡回展と出前授業、小学生向け体験学習指導です。2番の方が昔のくらし展の実施期間中に学校が博物館にきて学芸員が解説などをすることになります。前述のとおり、昔のくらし展は会期が短いため、申し込みが会期内に間に合わない可能性がございます。そのため出前授業が増えると予想しております。その出前授業も申し込みの実施により対応したいと思っております。続きまして、地域連携の教育普及の3番。地域祭り、この中ですと行徳祭りについて令和7年度に歴史博物館が初参加いたしまして、かなりの好感触でした。やはり行徳地域では歴史博物館や考古博物館を知らないという方が結構多かったのですが、広報することもできましたので、ぜひ来てみたいという声もいただきましたので、令和8年度も参加したいと考えております。最後、運営の3番。お手元資料にある青っぱいパンフレットが歴博の行事案内です。開いてもらいますと年間行事予定表が細かく組み込まれるようになりました。日にちが決まっているものは記載してあります。またもう1枚開いてもらうと、こっち側の右ページ側に博物館イベントというところで普段こういったことをしているなどの案内を入れるようにしました。また申し込み型のイベントもこういったものがあるよという例を挙げまして、こちらも申し込みはSNSなどを見てくださいという風になっております。また4番 SNS等による発信ですね。イベント、昔あそび以外にも博物館が普段どのような活動をしているのかというものを発信しています。やはりこのSNSによる情報発信によって、昔あそびに来てくださる方が増えております。今後も引き続き令和8年度情報発信していきたいと考えております。以上です。

金子学芸員

続きまして自然博物館の学芸員金子よりご報告させていただきます。資料表の1番上です。収蔵資料の調査整理及びパソコン管理、ボランティア作業を含むということで、収蔵資料のExcelファイルを用いた台帳化を継続して進めております。前回の協議会から今回までの間に貝類の収蔵表のリストをホームページ、Webサイト上にアップしてExcelファイルでダウンロードできるようになりました。昆虫、鳥に関してもほぼほぼ準備ができておるので、順次公開をしていく予定でおります。それから、図書管理ですけど、これも他館から来た研究号報ですとか企画展の図録ですとか、そういったものが書庫にずっと入っているのですけれども、それをボランティアの方にずっと整理をさせていただいて号数、発行年、中のタイトル、記事、筆者、その他のものを全部Excelファイルにしました。これも2024年末までの整理分に関してウェブサイト上にExcelファイルで上げてありますので、ダウンロードしていただければどういう図書関係があるのかわかるようになっております。もちろん図書館とは違うので、開架式でそれが見られるわけではないので、ウェブで公開したリストを見ていただいて、研究等で利用される方とやりとりをする中で閲覧していただくとかそういう形になろうかと思っておりますけれども、こちらの方も順次作業を進めています

ころでございます。それから、次の大きい塊、展示は例年通りです。さらにその市民向けの教育普及ということで、1、2、3、4長田谷津散策会、大町自然観察園環境整備、スナヤツメレスキュー、ホトケドジョウレスキューは従来通りです。新しい企画として5番目に15分ミニ解説というのを始めることにしました。これは展示室の中に大型モニターがあって、椅子があって、モニターの番組を自由に見られるというスペースがあるんですけど、そこをちょっとした小スペースみたいな形にして、モニターと収蔵庫から剥製を持ってきて、剥製を使って、4月は今タヌキで考えているのですが、タヌキとかフクロウとかアナグマとかそういったものについて説明する感じですね。なぜ15分なのかというと動物園の中にあるという立地上、やはり家族連れとかそういう単位で来るので、長い拘束は向かないんですね。子どもを中心に動くので、あまり拘束感がないような形で解説をする。これは申し込み制でもないですし、展示室の中のオープンな所をちょっと、イメージとしてはスーパーの試食販売を考えていただければ結構です。ソーセージやらなんやらのあんな感じで自由に来ては学芸員さんや係の人が剥製を持ってなんかあれこれしゃべっているねとかっていうところをちょっと覗いてってまた去ってもらうでも良いし、長田谷津散策会の参加者には周知をしているので、本当にコアな方はそのために来ていただいてしっかり聞いていただくこともできる。あともう一工夫考えているのは、動物園の中にありますので動物園に世界のいろいろな動物が生きた状態で展示されているんですけども、あれってものすごく大事というか、学びの種の宝庫なんですね。日本の動物を説明するときに、日本にはいない全然違う地域のもものと比較することでわかること、違いがはっきり見えてくるのでそれがウチの博物館の場合はもうすぐ階段を上がっていけば、アフリカの動物であったり、東南アジアの動物がいるので、そことも関連付けて説明していこうかなという風に考えております。今はパンチくんでもものすごくお客さんが来ていて、どのくらい来ているかという、平日が、人出の多い日曜日並の入園者でありウチの入館者です。土日は、天気の良いゴールデンウィーク並なので、こちらの人数の感覚が全然マヒしてしまっていて、動物園の方は3月にきて年間の入園者をずっと最高記録を日々更新しているようなそんな感じなのですけれども、ああいう形でお客さんが来ていただくのはもちろんありがたいのですが、やはり動物園になぜ世界のいろいろな動物が生きた状態で展示されているのかっていうことを考えた時には、博物館から剥製などを使って身近な動物を説明し、それと比較対象として動物園に行ってもらおうという利用の仕方があるので、そういう形で15分ミニ解説というのを始めてみよう、初めての企画なので、やりながらちょっとずつ修正は加えていくと思うのですが、動物園連携ってことも含めて考えております。あとその他に関しては例年通りになっております。以上です。

松田委員長

はい。それでは、今いただいたご説明、館別事業計画について、今皆様からご意見やご質問がございましたら、お願いいたします。

櫻庭委員	考古の方ですね。市民向けの教育普及ということで縄文体験フェスティバル、8番ですね、これ3月21日に変更するのではなかったですか。3月の28日になっていますけど。
松本学芸員	はい。お答えいたします。おっしゃるとおりこれは修正漏れでございます。申し訳ございません。3月21日ですね。実はこれ例年第4日曜日に開催するという決め事がございました。この事業計画に日付入っております通り、年末に書いたものでございます。つい先ごろ3月22日に今年度のフェスティバルを開催したのですが、1か月ほど前に行いました説明会で、できれば年度末ギリギリというのは行政としてはなかなか厳しいということで、参加者の皆様にご相談いたしまして、概ね参加団体の皆様にご了承いただいたので来年は3月21日ということで変更となります。申し訳ございません。
松田委員長	はい。ありがとうございます。よろしいでしょうか。さすが、桜庭委員ならではのご指摘ありがとうございます。その他にご意見やご質問はございますでしょうか。
松田委員長	お願いいたします。滝口委員。
滝口委員	歴史博物館の展示の事業で5番に収蔵庫整理の報告展とありますが、これは整理事業を一般に公開して知ってもらおうということだと思えるんですけども、非常に重要なことだと思うのですが、どういう感じで進められているのか教えてください。
福島学芸員	はい。福島です。上半期には特別実習という形で國學院大學の学生さんを受け入れて集中的に収蔵庫整理作業を行います。その作業においては基本的には既存資料を清掃して、現状を調査して、焼印や墨書があったら記録をして、デジタルで撮影をして収蔵庫に戻すというのが作業内容になるのですが、その過程で実は昨年度まで民俗担当の学芸員が15年近く非正規職員でありましたので、中々保管に関する事業が進められなかった、そういったこともありまして、記録が不十分なものが多くございました。そういったことで、記録漏れしているものについて着目して、作業の中でわかったことをピックアップして展示していく予定です。 ちなみにこちらの展示もですね、その作業に協力していただいた学生さんと協同して作っているものになります。令和6年度は館報に書かせていただいたのですが、製塩道具に着手しまして、行徳の塩づくりで象徴的な道具である、塩場と書いてショバと読むのですが塩場策というものを展示させていただきました。こちらは大量に使うものですので、あざ名だったり、所有者の名前とかが墨書で残されているんですね。ただ、実は常設展示ではそういうお名前が書いてあるということは解説パネルに書いてあるのみで、同じ資料を見比べるという機会がなかなかございませんでした。ですので、収蔵庫整理の成果報告展においては、民具の見方をあらためて展示を通して皆様に知っていただかないしは、ウチで

死蔵していた資料を表に出すという機会をもって展示をさせていただいております。ちなみに今年度行いました成果報告展示は海苔づくりの道具なんですけど、こちらと同じく常設展示にあるものですが、常設展示とは違った視点で、民具における工夫についてピックアップしたテーマになっております。そういったことで、常設展示ではわからないようなもうちょっと細かい視点に着目したような展示を毎回行わせていただいております。

滝口委員

はい。ありがとうございます。1 回収蔵してそれっきりになるものが博物館は多いと思いますけれども、もう 1 回見つめなおすという、そうすると必ず再発見があるので、それをまた出すというのは非常に重要だと思いますので、ぜひ継続してやっていただければと思います。ありがとうございます。

松田委員長

ありがとうございます。その他にご意見やご質問はございますでしょうか。私からも質問とコメントがございまして、歴史博物館につきましては、ウェブサイト、考古と歴史両館につきましてウェブサイトを新しくしたというご説明がございました。かなりすっきりとした新しいものになったような気がしております。どのような点を工夫して刷新したかということをご説明いただけましたら幸いです。かなりわかりやすくなったような印象をうけましたけれども、実際に担当された方のお話をお聞きできればと思います。

あと歴史博物館につきましては、先ほどの滝口委員の質問にもちょっと重なるのですが、民具資料を再整理するというご説明でした。お尋ねしたいのは、民具資料の収蔵状況が市川市ではどうなっているのかということでございます。皆さんお聞きになっていらっしゃるかと思いますが、今、全国で収蔵庫問題が深刻になっております。とりわけ民具が深刻です。市川市での民具の収蔵状態、どこにどのような状態で収められているのかについてお聞かせいただきたいです。あと、再整理の「再」という言葉の意味は、先ほどのご説明だと、文字どおり「あらためてもう一度見た」ということだったと思いますけれども、他の地域のいくつかの館では、再整理は実質的に「除籍」を意味するところもございます。市川市ではそういうことはないと思うんですけども、状況をご報告いただけましたら幸いです。

自然博につきましては、パンチ君の影響についてお伺いしたかったんですけども、先ほどご説明いただきました。あと 1 番のところですね、Excel ファイルを使って収蔵資料の整理を進めていらっしゃるということで、貝類の Excel ファイルは公開されたということで、先ほど確認いたしました。貝類以外にも植物のさく葉標本の Excel ファイルも公開されています。全体でいうと、今、何パーセントくらいが公開されたのでしょうか。厳密な数字でいうのは難しいかもしれませんが、例えば、ジャンルが全部で 10 あるうちの、2 くらいが公開できている、というような印象でも大丈夫ですので、お聞かせいただけましたら幸いです。お願いいたします。

山岸学芸員

はい。では考古・歴史博物館のウェブサイトについてお話させていただきたいと思います。旧ウェブサイトですと、ご利用案内という中にアクセスなどと一緒に入ったページの中に一緒に資料の利用の申請ですとか寄贈の申請ですとかそういったものが一緒になっていましたので、そこを別にして資料を利用したいときはダイレクトにホームページに飛べるように分けてあります。また、同じように学校連携というページになっていたところですね、今は見学、実習というページにしております。学校連携といいますと小学校から大学生まで一緒くたになっていましたが、見学、実習という新しいページにしたことで、小学校3年生の昔のくらしの見学の申し込みをしたい人はここ、また博物館実習を受けたい人はこちらをというように分けるようにしました。ダイレクトに一発でそのページにたどり着けるようなウェブサイトにするように変えました。ウェブについては以上になります。

福島学芸員

はい。続きまして収蔵庫整理について福島の方からお答えさせていただきます。まず、ウチの当館における収蔵庫、特に民具を入れている第1収蔵庫の状況につきましては、昨今様々な博物館で問題になっておりますとおり、当館も例に漏れず、収蔵庫問題に苦しんでいる館となっております。当館も開館から40年が経過しましてそれに比例して資料が増えていくものでございます。今年度の収蔵庫整理で発覚したんですが、当館が開館するより以前、市川博物館の時代から収蔵している資料が見つかりました。これに関しては収蔵番号が振られておらず、大変困惑している状態でございます。棚につきましては、どうしてもやはり入りきらずに床に安置してしまっている資料が多くございます。やはり市民から寄贈いただいた資料ですのでこういった床に安置するというのは適切な保管とは思えません。そういったこともございまして、その危機感を持ってこのような事業を始めさせていただいたというような話です。もう一つ問題点を挙げるとしたら大型資料ですね、やはり民具と言えば農具関係が多いので大型資料のミズグルマ、水車であったりですとか足踏み脱穀機であったりですとか、そういったものが部屋の一角に置いてあったんですね。それは奥の方にいったら二度と取り出せないような状態が長年続いておまして、かつ床が埋まっておりますので、真上の蛍光灯も長年切れていた状態になっておりました。非常に視認性が悪い、しかも正直どこに何があるのかわからないというような状態です。ただその大型資料に関しましては令和6年度の収蔵庫整理において全て収蔵庫から大型資料を出したことで、床が空いたのでその蛍光灯をLEDに変える、そういった工事も進めることができました。そして、大型資料に関しては何があるのかを再整理をして、そして大きな文字で、足踏み脱穀機何番という風に大きい表をやってもう1回戻すというような作業をしております。先ほど床に安置している資料があるという風に申しましたが、実はウチの博物館の収蔵庫は棚の高さを調整できないんですね。なので、入っているもの高さによって棚を調整できないのでそういったこともあってデッドスペースがかなり生まれていることがわかりました。ということはあらためて適切に収納、格納していけば床に置いてあるものも、適切に棚に入れることができるのではないかと。というようなことで、整

	<p>理を進めさせていただいております。そして後半にございました再整理は除斥の意味があるのかという点につきまして、これははっきりと無いと言わせていただきたいと思います。こちらに関しては除斥ということは一切考えておらず、あくまでも死蔵資料の現状調査、そしてデジタルミュージアム化に向けたデジタル撮影というものが根幹にございます。その作業を通して棚に適切に戻していくというような流れとなっておりますので除斥ということは考えておりません。</p>
<p>金子学芸員</p>	<p>自然博物館から収蔵資料の Excel ファイル化、公開ですけれども、全体のどれくらいかというところと 10 パーセント未満です。植物が 8500 点くらい、貝が数百点なんですけれども、やはり圧倒的に多いのは、昆虫標本があってそれが何万という単位があって、それを Excel にして出せばもうちょっといくのかなと思います。本当はこの協議会の前までに公開しているはずだったんですけれども、なんせパンチ様のおかげで大変なことになっておまして、いろんな業務が止まっている状況、動物園もそうなんですけれども、そんな感じになっているんですけれども、割合的にはそんな感じです。また収蔵庫問題のことにに関して僭越なんですけれども、今度の県博協、千葉県博物館協会のミュージアム千葉という研究誌に原稿書いていますので、もうすぐ出るんだろう、出ると思うのでそれをちょっと読んでいただくと、自館に関する投稿と県博協でウチの博物館の収蔵庫に研修会で見学に来てくださっていたので、その時の状況と両方で載りますのでそれをちょっと見ていただければと思います。以上です。</p>
<p>松田委員長</p>	<p>はい。ご説明大変ありがとうございました。ウェブサイトを通じた情報の発信もそうですし、収蔵されている資料の再整理もそうですし、収蔵庫のスペースの有効活用もそうですし、また Excel 表などを通じた収蔵資料情報のデータの公開もそうですけれども、この協議会で議論することによって、館が予算確保も含めて何か改善に向けて動きやすくなるのであれば、やっぱり我々委員からも発信すべきだと思いました。今 3 館よりご回答いただきましたが、ぜひそれぞれ今回の計画どおり進めていただきたいと、あらためて思ったことを発言として残しておきます。その他何かご意見やご質問お願いいたします。谷畑委員。</p>
<p>谷畑委員</p>	<p>先ほどちょっと松本学芸員さんには質問したこととだぶる内容ではあるんですけれども、考古博の市民向けの教育普及の 1 番最後の VR 映像公開ですね、この VR 私夏にここ来た時に見せていただいたのですが、大変すばらしくて横浜なんかに行くと 3000 円出さないと見られないものがここでは無料で見られますので、もっといろんな方に見ていただきたいんですけれども、ただ、見ていると一々これを付けた後、清拭しないといけないとか壊れやすいとか、いろんな問題があるので、多くの方が学校単位とかで来られた時にはちょっと見ていただくことは難しいと思います。映像とかそういう何か他の形で映像を子どもたちや多くの方に見ていただきたいというようなこともいいだろうと思っているのです。</p>

	<p>が、そういうことが具体化するような計画とかを立てることは可能でしょうか。</p>
小笠原課長	<p>私、小笠原が答えます。VRの方なんですけれども、VR ゴーグルは今先生がおっしゃったとおりゴーグルで見るとは台数の制限がありますので、長々広範にわたって活用するというのは限界があると思うのですけれども、1月末から YouTube の方で配信を始めさせていただきました。こちらでも 360 度 YouTube の画面上で確認することができますので、国府の説明もそうですけれども、その当時の景観というものも再現しているところで、動画の方はそちらで見ることができます。あとは現地の方に行ってくださいと、説明の看板がまだ整っていないのですけれども、ストリートミュージアムというアプリをダウンロードしていただくと、当時の景色を現地で見るような映像の再現ができるようになっておりますので、そちらについては現地ならではのというもので見ることができますので、両面で活用の幅を広げていきたいというふうに考えております。以上です。</p>
松田委員長	<p>谷畑委員よろしいでしょうか。</p>
谷畑委員	<p>はい。ありがとうございます。</p>
松田委員長	<p>私、先ほど現地のスタジアム周辺で AR の看板をいくつか拝見しました。これも考古博が担当して置かれたのでしょうか。</p>
小笠原課長	<p>厳密にいうと文化財グループという同じ課の中のグループが担当しています。もちろん映像の作成については、考古博物館の山路学芸員が監修をする中で作成したものとなっております。</p>
松田委員長	<p>とても良い取り組みだと思いました。博物館と文化財担当の連携がうまくいっているなどという印象を受けました。ぜひこちらも進めていただければと感じました。その他にご意見、では田辺委員お願いいたします。</p>
田邊委員	<p>すみません。先ほどの歴史博物館の収蔵庫の件で、虫損、虫による被害とかは無かったのでしょうか。大丈夫だったのでしょうか。</p>
福島学芸員	<p>お答えいたします。虫損は特にございませんでした。カビとかも特になかったので、そういったものは一切見つかっていません。ただ、一応収蔵庫の下が、床が木でございますので、万が一のことも考えまして、大型資料に関しては木の角材をです、下駄として履かせて少し実際の床から浮かせるようにして戻すといったような対策を取らせていただいております。</p>

田邊委員	はい。ありがとうございます。
松田委員長	はい。ありがとうございます。それでは櫻庭委員、お願いします。
櫻庭委員	来年度のよみがえる曾谷貝塚展というのを企画されていますが、現地の方の曾谷貝塚ですね、私すぐ近くに住んでおりますので。普段はですね、犬の散歩とか、いろんな遊び場といますか、とても貝塚という認識を持っておられない方が大多数じゃないかなと思うんですよ。標識及び解説もですね、なぜか日にさらされてほとんど読めない状態なんです、解説文も。ということで、先ほど VR の話もありましたけど、現地に QR コードをかざしてスマホで見るようなことは考えていませんか。どうなんですか。
小笠原課長	曾谷貝塚につきましては今年度に保存活用計画の策定をいたしまして、本日は発行が間に合っていないので次回の会議の方でご報告できればと思っておりました。その中で VR の活用などというものも含めて史跡の整備を今後進めていくというような計画を考えているところです。来年度はまだ調査の実施とかもございまして、実際の整備まではしばらく時間がかかると思うんですけども、最新の技術を導入した形で曾谷貝塚が地元の方に史跡として重要であると伝える必要ということでなにか参考になるので、整備保存活用計画に基づく整備もそうなんですけれども、その普及活動も並行して行いながらですね、機運を醸成していければと考えております。
櫻庭委員	ぜひお願いいたします。
松田委員長	はい。ありがとうございます。その他にご意見やご質問がございましてでしょうか。よろしいでしょうか。はい。谷畑委員お願いいたします。
谷畑委員	なかなかちょっと難しいことかなと思うのですが聞いてみたいことが1つあります。各館皆さんすごくがんばっていらっしゃるって、仕事がどんどん増えていくと思います。その中で皆さんの、業務過多とかにはなっていないのかなと少し気にはするんですけど、がんばっていらっしゃるのもよくわかって、パンチ君のおかげで入館者数が増えているということでもいいことなんですけれども、博物館とか美術館によっては休館日を増やしているところが実はございまして、ここはちょっと該当しないかもしれないですが、私が前にいた博物館ですと週の真ん中の水曜日とかが結構誰も来ないんですよ。なので六本木の新美（国立新美術館）とかは確か休館日が水曜日だったのですが、休館日を増やすというのは条例を変えなければいけないので難しいとは思いますが、もしなんだったら将来的に検討していただいてもいいのかなと思います。休館日であっても中の仕事は続くわ

	<p>けで、職員の方は休みではないですけれども、ちょっと閉める日が増えると仕事がしやすくなるのではないかなと思いましたが、提案というか感想というか、これをやってくださいということではないですけれども、将来的にもし首が回らなくなったらふと思いでいただければなと思ひ発言させていただきました。すみません。</p>
松田委員長	<p>はい。ありがとうございます。こういう協議会では委員からいろいろ要望とか注文がついて仕事が増える方向ばかりに行きがちなところ、谷畑委員から心遣いあるコメントをいただいたと思います。感想でもよいとのことでしたのが、しかし議事録には残りますので、そういった方策もあることをぜひ覚えておいていただければと思いました。よろしいでしょうか。</p>
大橋愛生委員	<p>感想でもよいということだったので、今日どなたにお礼を言ったらいいのかわからなかったのですがこの場をお借りしてなのですが、私の子どもが所属しているのが稲越小学校でここから近いところにあるのですが、去年6年生で縄文体験を出張で行っていただきまして、その時に火おこしとか勾玉づくりをさせていただいたのですが、こないだの先週の卒業式のときにその教えていただいた先生にわざわざ卒業おめでとうありがとうございますの電報までいただきまして、子どもたちがすごく喜んでいまして、子どもたちの中で、学校の1年を振り返るといってこれをエンドロール形式でやった時に、縄文の体験をした時の映像が出た時にあー楽しかったねって言ってこれで僕たちも無人島行っても火おこしできるねというなんていう話もしていて、私も実際体験した時に一緒に補佐で付かせていただいたので、一緒に体験させていただいて、すごく楽しかったのですが、こういったお忙しい中ではありますがこういった出張事業にご尽力いただきまして、本当にいつもありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいたしますということをぜひ伝えたいので、すみません。この場をお借りいたします。ありがとうございます。</p>
松田委員長	<p>大橋委員ありがとうございます。また、委員も感謝しているような良い活動をされているということも、記録として議事録に残ればと思いました。はい。よろしいでしょうか。令和8年度、すなわち来年度ですね、この事業計画案につきましては以上にしまして、続いて報告事項の2番目の項目、令和8年度企画展よみがえる曾谷貝塚、国内最大級の馬蹄型貝塚との仮称でございますが、こちらについての報告をお願いします。</p>
領塚学芸員	<p>はい。学芸員の領塚です。私の方から説明させていただきます。曾谷貝塚というパンフレットに5つの史跡が紹介されています。堀之内貝塚、曾谷貝塚、姥山貝塚、国分僧寺、国分尼寺、僧寺の方は北下遺跡ということは補足してあります。そのうちの史跡の内の1つということで、市川市でも重要な史跡になります。こちらの史跡は縄文時代の史跡の1つになるわけですけれども、今から大体4000年前～3000年前くらい前の縄文時代の前半後</p>

半でいうと後半の縄文時代後期と言われる時期の遺跡でございます。市川市内はもとより50か所以上の貝塚があり、これは千葉県全体にも言えることなんですけれども、千葉県には全国の3分の1の縄文時代の貝塚があります、700か所があります。非常に貝塚が集中している場所の中で市内に50か所以上あるというのは圧倒的に集中している場所の1つとなりますが、こちらの企画展を開催させていただくのですけれども、なぜこの企画展を今？と先生方も非常にその辺をお知りになりたいところかもしれないですが、実は曾谷貝塚を市川市教育委員会の方で1970年代半ばに4年ほど発掘して、その発掘成果に基づいて国の史跡になっているのですが。その掘った時の、資料整理の記録を一昨年国指定遺跡の曾谷貝塚の総括報告書という形で、1冊の本にまとめました。もちろん市教委以外の市川教育委員会以外の調査も行われているのですけれども、それについては研究の歩みというところでご紹介させていただいているのですけれども、そのこれまで調査成果が出ましたのでその成果を市民の皆さんにわかりやすく、説明させていただく機会になればということで、この企画展を開催します。資料の順番で行きますと、新年度に入りまして年度末の1月16日から3月28日の2か月弱になりますけれども、歴史博物館の2階の特別展示室で、開催させていただく予定になっております。入場料は無料でございます、関連行事としてはガイドツアーを1月に1回、2月に1回、3月に1回という形と、講演会を中央図書館2階のグリーンスタジオというところで開催させていただく予定にしております。展示資料といたしましては、市川市教育委員会の4年間掘った発掘資料の他に東京大学の総合研究博物館に資料があったり、明治大学の博物館に資料があったり、あと國學院大學の博物館に資料があったり、そしてあと縄文土器で曾谷式土器という名前が付けられた縄文土器、その標本といいますか、最初に見つかった土器が奈良県奈良市の奈良文化財研究所の方にあります。それを、美術梱包車を使って長距離ですけれども借用してきて、市川市としては発掘されてから90年ぶりに曾谷式土器の標識の資料をお借りして展示する。そのような形です。展示期間は2か月でそれ以外に、刊行物として40ページほどの展示図録を予定しております、そういった形のもので市民の皆さんに理解していただきたいなところです。それから曾谷貝塚、日本最大級の馬蹄形貝塚というページがございます。蹄形貝塚っていうのはどういう事なんだろうとたぶん皆さん思われたかと思うのですけれども、これは馬の蹄の形と書きますけど、馬の蹄というものを後ろから見るとアルファベットのCの字のような形をしているんですね。真ん中が空白でアルファベットのCの字のような形、そういうアルファベットのCの字のような形をしている貝塚のことを馬蹄形貝塚というんです。こういう形で、上が北で、右側が東、左側が西になりますけれども、東西方向、左右方向が大体210m、南北方向、上下方向が240m、真ん中に広場を持って、その周りに貝が捨てられているような形になっていて貝の下を掘ると住居の跡が出てくる、そういう遺跡でございます。この遺跡の特徴というのは、まず1つはこの馬蹄形の貝塚では日本で1番規模が大きいということです。2つ重なったものと千葉市の加曾利貝塚が1番大きいですが、単体としてはこの遺跡が1番大きいです。それから、

曾谷式土器という風に名付けられた縄文土器の様式の遺跡になります。それから、貝の腕輪、大きくなるとまん丸になるイタボガキという貝があるんですけども、その貝を使って腕輪を作る、その製作の遺跡でもあるということ。それからあと右下の方にも、ウンチの化石なんですね。そういうものは通常土の中に埋まっていると分解してしまうんですけども、貝塚のカルシウム分に保護されて非常に残りがいいんですけども、これ、人間のものか犬のものかっていう判断が難しいところなんですけれども、いずれかのもので。それがかなりまとまっていて3~40点出ていて、日本でも結構まとまって出ている遺跡の1つとして知られている。あと最近の研究で貝をたくさん採ってきているんですけど、海の貝になりますけれども、曾谷貝塚ができていた当時の海が大体どこにあったかという手掛かりが得られつつありまして、低地の低いところを市内で工事があって洪水用の調節池などを掘っている時に貝の化石がでてきて、そういうものの年代を測ったりして大体曾谷貝塚の西側そして東側大体2kmも行けば1.5kmとか行けば当時海があったのがわかりつつありまして、要するにその貝塚、当時の村の跡といってもいいんですけども、そこからどのくらいの場所に海があったのかというのわかりつつあります。そんなようなところを展示していきたいんですけども、こだわりとしてはやはりその見学するときに過去のものだけ見ている中々理解が及ばない時もありますので、例えばその、現代と比較して貝塚からは魚の骨とか動物の骨がありますけれども、では今の市川にはどんな動物がいるのかなとか、その違いは何を意味するのだろうか、環境の違いとかいろいろあると思いますけど。それからあと縄文時代もですね廃材利用みたいなこと、リサイクルみたいなことをやっていますけれども、そういったようなことを取り上げたい。なるべくその過去と現在を比較するような形の展示ですね。わかりやすく説明ができたらと思っていますし、最近では人骨の骨を調べると炭素と窒素の割合でそのひとが過去に何を食べて生活していたかというのわかったりもしますので、そういう自然科学の分野のそういう分析技術も使って、わかりやすく展示の方を紹介させていただきたいと思っております。

松田委員長

はい。企画展についてのご説明ありがとうございます。ただいまのご説明につき、企画展についてご意見やご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。とても充実した展示になりそうですので、これも期待できるかという気がいたしました。始まったら見に行きましょう。よろしいでしょうか。はい。では大丈夫な様でしたら、報告事項の3番目市川市立博物館基本的運営方針及び事業計画について報告及び説明について事務局よりお願いいたします。

小笠原課長

考古博物館長小笠原でございます。度々失礼いたします。博物館の基本的運営方針及び事業計画案についてご説明をさせていただきます。資料は冊子の基本的運営方針案となりますのでこちらをご覧ください。時間の都合もございますので、前回の修正箇所についてご説明させていただきます。まずは資料の3ページをお願いいたします。下線を引いてある

部分が修正点となります。3 ページの方では表現をよりわかりやすく内容を修正したということになっております。続きまして4 ページをお願いいたします。こちらでは考古・歴史博物館では3月5日、自然博物館では3月12日にですね、博物館の再登録に関する県の担当者ヒアリングが行なわれまして、そのヒアリングの際に県から指摘された内容を踏まえて修正を行なったものでございます。内容といたしましては県からは3つの博物館の機能の違いを明確にするよう指摘されましたので、求められる使命の中でそれぞれが考古博物館、歴史博物館、自然博物館とそれぞれの博物館毎の役割を文言で決め修正いたしました。またその他表現を、十分わかりやすい表現に直しております。続きまして5 ページをお願いいたします。こちらはですね前回の協議会の会議のところでご意見いただいた内容につきまして、調査研究の充実という文言を3の(1)の①のところに加えた方がよいのではないかというご意見いただいたので、そのような形で修正させていただいているところでもあります。最後に9 ページをお願いします。第3章としまして博物館基本運営方針の体系図をお示ししているところがございますが、こちらの修正につきましては、前段第1章から第2章までの修正内容を体系図の中に修正を加えさせていただいたところになっております。修正点は以上となります。もし本筋の内容につきましてご了解いただけましたら、教育委員会会議の方に議案として提出していただきまして、正式に改定の方までさせていただければと考えております。説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

松田委員長

はい。ご説明ありがとうございます。これは報告事項ですけれども、報告内容を受けてのコメントがあれば、それを受けての調整の余地があるかもしれません。基本的にこれでよいのかといったことも考えながら質問やコメントがあれば委員の皆様よりお願いいたします。よろしいでしょうか。はい。それではこの内容、ご報告いただいた内容でよいのではないかと協議会でも感じたということになるかと思えます。それでは、両ガッコ1の報告事項は以上で終わりとなります。議事案に基づきますと、両ガッコ2の「その他」に移ります。はじめに、「その他」の1番目令和7年度下半期に行った事業の報告についてということで、今年度の下半期の事業報告を事務局よりお願いいたします。

小笠原課長

はい。事業報告について2点ございます。資料など特にございませぬ。まず1点目は、令和7年10月17日土曜日に市川市文化会館てこなホールにおきまして、第6回全国国府サミットというイベントを開催しました。当日は近くは東京都の府中市遠くは鹿児島県の薩摩川内市から過去最多の20の自治体に参加いたしまして、共同宣言等を行ったところでございます。来場者の方もおかげさまでもちまして文化会館の大ホールがほぼ満席という状態という大変ご好評をいただいております。本協議会委員の山田委員にもご協力いただきまして、当日の展示コーナーで千葉商科大学の学生さんが作成したパネルの展示をしていただきまして、サミットを盛り上げていただきました。この場を借りまして改めてお礼

	<p>を申し上げます。また当日会場にも設置しました先ほど谷畑委員も言っておりましたけども VR ゴーグルです。会場でも大変好評をいただいております、YouTube の方でも先ほどもご説明したところでも配信をしているところで、どちらでもこれから活用の幅を広げていければと考えているところでございます。2 点目は國學院大學との協定につきまして、先ほど歴史博物館の事業計画の方でもございましたけれども、協定の締結式は今年の 11 月の 11 日の火曜日に行いました。市川市役所の第 2 庁舎の方で行いまして、國學院大學の針本学長、西村学部長、及び石垣委員にお越しいただきまして、本市の高木教育長と針本学長が相互に協定書に記名を行ないまして、協定の締結を行ったところでございます。来年度以降も相互に協力しながら活動を継続できればと考えております。以上となります。</p>
<p>松田委員長</p>	<p>はい。ご報告ありがとうございます。ただいまの報告、全国国府サミットが市川市で行われたということ、國學院大学との協定について何か質問ご意見ございますか。よろしいでしょうか。市川で国府サミットがホストのような形で行われたのはとてもよいことだと思いますし、大学との連携という意味でも國學院大学はしっかりと歴史・考古・民俗の緻密な調査をやってくれると思いますので、協定も良いことだと感じました。はい。では「その他」の 2 番目、次回協議会の開催日程等についてお願いいたします。</p>
<p>高橋主幹</p>	<p>はい。次回の協議会の日程につきましては、例年暑い時期で恐縮なのですが 8 月頃を予定しておりますので、来年度もその時期を考えております。また、後日皆様にご都合をお伺いする連絡を差し上げたいと思いますのでよろしくお願いいたします。以上です。</p>
<p>松田委員長</p>	<p>はい。ありがとうございます。それでは議題の両ガッコ 2 のその他も全て一通り終わったかと思えます。この後両ガッコ 3 の現地視察に移る前に何かもう 1 度委員の皆様からこれだけは言っておきたいというのがあればお願いいたします。どうでしょうか。田辺委員何かございますか。</p>
<p>田辺委員</p>	<p>大丈夫です。</p>
<p>松田委員長</p>	<p>はい。では両ガッコ 3 の現地視察に移りましょう。この段取りは、櫻庭委員にお願いいたします。</p>
<p>櫻庭委員</p>	<p>お手元にですね、貝塚の特別号ということで皆様のお手元に。それから 50 周年の記念回をお配りさせていただきました。また、小笠原考古博物館館長と高橋歴史博物館館長にご寄稿していただきました。ありがとうございます。改めてお礼申し上げます。また、堀越元館長から友の会発足の経緯についてもご寄稿いただいております。これは後でどうぞ自由にお読みください。これから特別展示室の方で見学していただきますけど、私考古</p>

	<p>の方はそれなりにちょっと説明できますけど、他拓本とか、行徳の神輿ですね、それから国府サミットを昨年市川の方で行いましたけど、山路学芸員の方から監修を受けて展示しておりますので、今山路学芸員はセミナーをやっているようですけれども、詳しいことは監修を行ないました山路学芸員にお聞きになった方がよろしいかと思えます。</p>
松田委員長	それでは皆様、会場へお進み下さい。
松田委員長	<p>【特別展示室「友の会50周年記念展」見学後】 見学を終え、本日の予定は全て終了しました。これを持ちまして閉会とします。お疲れ様でした。</p>